

---

# 発達理論の学び舎

Back Number: Vol 230

Website: 「[発達理論の学び舎](#)」

---



---

## 目次

- 4581. インテグラル理論を学ぶインテグラルではない人々
- 4582. ライオンの赤ちゃんと冷徹冷静に投資取引を完了するビジョン
- 4583. 変化の相互作用:作曲実践における工夫
- 4584. オランダの起業家ビザ・個人事業主ビザの申請手順のまとめ
- 4585. ヴェロキラプトルとティラノサウルスが現れる夢
- 4586. 夕暮れ時の振り返り:オランダのプライベートバンクの活用と今朝方の夢のシンボルについて
- 4587. 早起きな愛犬と近づくモスクワ旅行
- 4588. 投資ファンドとプライベートバンクの活用を通じた世界の把握
- 4589. オンショアのプライベートバンクの活用とオフショアの投資ファンドの活用
- 4590. 作曲と投資に関する学習と実践を行う日々
- 4591. 変化の実感と投資に関する今後の学習と実践について
- 4592. 明後日からのモスクワ旅行に向けて
- 4593. 今朝方の夢
- 4594. 人生における区切りの日:4年間ほどの休養
- 4595. 2019年6月24日から2023年6月24日までの4年間の休養について
- 4596. 穏やかな土曜日の夕方に
- 4597. 創造活動に適した早朝に思うこと
- 4598. 死にまつわること
- 4599. 今後のオンラインゼミナールやセミナーについて
- 4600. 今朝方の夢とそれが示唆する事柄

時刻は午前5時半を迎え、辺りはすっかりと明るくなった。今は、小鳥の優しい鳴き声を帯びたそよ風がフローニンゲンの街を通り抜けている。

先ほどの日記の中で、投資や金融に関する話題に触れていたように思う。ちょうど先日出版された『インテグラル理論』について思いを馳せながら、先ほどの日記の主題である投資や金融に関して考えてみると、インテグラル理論や成人発達理論を学ぶ人は、とりわけ投資や金融に関して疎いことが非常に多いように思える。これは日本に限った話ではなく、米国にいた時に自分が感じていたことでもある。

端的には、インテグラル理論の学習者や実践者のほとんどは、段階特性としてもインテグラルではないことはさることながら、学習や実践に関しても何ら統合的ではないことが多いように思う。インテグラル理論にせよ、成人発達理論にせよ、とりわけ内面領域に強い関心を示す人たちの多くは、外面領域を取り扱う知識・実践領域に疎い傾向があり、とりわけ投資や金融というのは最たる例かと思う。

確かに私は投資や金融に関する学習をこれまでも行っていたし、実際に投資をするということは社会人以降今に至るまで緩やかに継続しているが、それらの領域についてはまだまだ理解が浅い。とかくこれまでの自分の専門領域がインテグラル理論や成人発達理論といった内面を主に扱うものであったことは、金融リテラシーを高めることの動機を減退させていたかもしれないと思う。しかし、この現代社会においては、確かに私が最も大切にしている霊性教育と芸術教育は不可欠だが、それに匹敵するぐらいに重要なのは金融教育ではないかと思う。この社会には、投資や金融に関する無知な人が大きく損をし、無知な人が搾取される仕組みがはびこっているのである。

そうしたことを踏まえると、自己防衛的な意味も含めて、投資や金融について学習をし、実践をしていくことはとても大切なことのように思える。少なくとも、インテグラルであるとするのであれば、投資や金融の領域は避けることはできないだろう。インテグラル理論を学ぶ者として重要なことは、内面主義者に陥るのでもなく、外面主義者に陥るのでもなく、それら双方の領域に関する知識と経験を

---

豊かにしていくことだろう。それは、この現代社会を生き抜いていく意味でも、そして豊かに生きる意味でも重要なことである。

インテグラル理論を学ぶ人たちやインテグラル理論の関係者を見ているとどかしいのは、私たちの物質的・物理的な生活を根底から支え、何よりも現代社会に巨大な影響を及ぼしている金融に関して疎いことである。疎いというよりも、もはや心のどこかでそれを毛嫌いしているかのようにすら思える。

結局のところ、そうした性向が当人の生活の基盤となる経済的安定性を脆弱なものにしてしまい、高度な精神性を涵養していくことがなかなか難しいのではないかと思うことがよくある。ホロン階層の下部構造が脆弱であればあるだけ、その上に積み上げられるものが脆弱なものになってしまうことを思い出す必要がある。

また、金融の知識の欠如が、自己の人生の多くの側面において制限をもたらしていることは多くの人が感じていることではないかと思う。発達とは、諸々の制約からの解放を意味するが、精神的な解放だけを強調するあまり、精神を司る物質的肉体を満足させ、それを解放していくための金融という見方を持っていない人が多いように思えるのは私だけではないだろう。端的には、インテグラル理論や成人発達理論を学ぶ人たちの多くは、精神というものに過度に着目するあまり、物質的・物理的な生活基盤に安定をもたらしてくれるカネに対して疎く、それに呪縛され続けている傾向が見受けられる。

カネの呪縛から真に脱却するためには、投資や金融に関するそれ相応の知識と経験が必要であり、何よりもある一定程度の実践結果——足るを知るを踏まえた資産形成——が必要かと思う。このあたり、インテグラル理論や成人発達理論の関係者が、結局経済的な不自由を被り続けており、カネの呪縛から真に抜け出すことができていないのは、投資や金融に関する知識不足と実践不足によるところが大きいように思うのは私だけではないだろう。

それらの領域の関係者の中で、カネに不満を持っていない人、カネに関して何不自由なく暮らしている人が少なく、投資や金融に関する知識と経験の不足によって、カネによる制約を受けている人が多いというのが実情だろう。この現代社会を生き抜くため、そして現代社会の思想や仕組みを理

---

解する上でも重要になる投資や金融について疎いこと、そしてカネの呪縛を受け続けていることによつて解放がもたらされていないことなどを踏まえると、インテグラル理論を学ぶ人の多くは決してインテグラル(統合的)ではないのだと思う。フローニンゲン:2019/6/19(水)06:05

#### No.2089: A Sleeping Baby Lion

I had a vision during a nap where I saw a baby lion resting in peace. This piece of music based on what I felt in seeing the vision. Groningen, 14:56, Wednesday, 6/19/2019

#### 4582. ライオンの赤ちゃんと冷徹冷静に投資取引を完了するビジョン

時刻は午後の2時を迎えようとしている。天気予報ではもうとっくに小雨が降り始めている時間帯のはずなのだが、まだ雨は降っていない。

今日は午前中のオンラインミーティングの前に、近所の河川敷にジョギングに出かけた。その時の天気は申し分なく、朝の爽やかさと陽気さが混じったような雰囲気の中を気分良く走ることができた。確かに今は、少し雲が出てきたが、雨雲かと言われるとそうではない。そうしたこともあり、改めて天気予報を確認すると、早朝の予報とは異なり、午後5時あたりから雨が降る予報に変わっていた。早朝からも絶えず天気は激しく変動しており、天候を予測することがいかに難しいかを改めて痛感する。

つい今しがた午後の仮眠から目覚め、これから夕食までの時間を再び自分の活動に充てていく。自分のライフワークに専心することができている状況には本当に感謝しなければならない。

諸々の社会的な雑音がほとんど聞こえない状況の中で、自分のライフワークに打ち込めることほど有り難いことはない。今後は完全なまでに雑音を遮断し、自分の取り組みに集中できる時間をさらに確保していく。

先ほどの仮眠中には、二つの印象的なビジョンを見ていた。一つ目のビジョンの中で私は、フローニンゲンの自宅の書斎の窓際に立っていて、そこから目の前の通りを見ろ下ろしていた。通りを見ると、自転車を押してゆっくりと歩いているオランダ人の家族の姿を見つけた。母親が一人、子供が二人、そしてどうやら二人の子供にとっての祖母のような女性が一人いた。四人は楽しげに会話を

---

しながら歩いており、母親はカゴ付きの自転車を押していた。私はぼんやりとしながら、彼らの姿が完全に消えるまで彼らの姿を眺めていた。

視点がふと彼らの背中から窓際に移ると、そこには小さなカゴがあり、見ると、なんとその中に一匹のライオンの赤ちゃんがいた。その赤ちゃんは穏やかな表情を浮かべながらスヤスヤと眠っており、体の上にはバスタオルのような布が被されていた。

私は自分の書斎にライオンの赤ちゃんがいることに驚いたが、その表情の穏やかさを眺めていると、とても幸せな気持ちになり、赤ちゃんの背中をゆっくりとさすった。そこで私はふと、つい今しがた観察をしていた四人の家族がこのライオンの赤ちゃんの飼い主だとわかったのである。

「そういえば、近所の道端に貼られていた張り紙に、ライオンの赤ちゃんを探しているものがあつたような・・・」ということを私は思い出し、その張り紙を貼ったのがまさに先ほどの家族だと気付いたのである。そこで私は、善は急げという気持ちになり、すぐさま彼らの後を追いかけることにした。そこで一つ目のビジョンが終わった。

次のビジョンの中で私は、つかの間の間に大きな資産を形成していた。具体的には、現在投資中の銘柄の価格が急騰し、資産価値が数十億円となったところで一部を売却し、数十分の間に大きな資産を形成した。その取引を行っている私は至って冷静であり、それはどこかサイコパス的であった。つまり、そうした大きな金額を動かしている時の私には何らの感情もなかったのである。

当初想定していた価格を遥かに上回る価格を付けた際には、一瞬驚きの感情があつたが、それはつかの間の感情であり、そこから売却に至るまでの私は非情、ないしは無情の境地にあつて取引を成立させた。そのようなビジョンを見ていた。二つのビジョンはどちらもとても興味深い。特に前者に関しては、ビジョンないしは夢の中でライオンが出てきたことはこれまで一度もなかったように思う。しかも、それが穏やかな表情を浮かべて眠っている赤ちゃんであつたことは何を暗示しているのだろうかと考えさせられる。

そのシンボルについて気になったので調べてみたところ、夢の中に現れるライオンは巨大な力や勇氣、あるいは攻撃性などを象徴するらしい。またここ最近の自分に当てはまりそうな記述としては、社会生活に制約を加えることによって、巨大な影響力を獲得するというような記述があつた。さらに

---

---

は、ビジョンの中で出てきたのは白いライオンであり、白いライオンは、自己の偉大な力、あるいは自分がそうした力を持っていることに対する突然の気づきの意識の芽生えでもあるという説明がなされていた。

ビジョンの中のライオンはまだ赤ちゃんであったこと、さらにはそれは眠りについていていたことから、自分の本当の力は未だ覚醒していないのかもしれない。いずれにせよ、ライオンの赤ちゃんがあのように幸せようにスヤスヤと眠りについていてる様子は、現実世界において絶えず平穏さと幸福さを感じて生きている自分と大いに重なるものがあった。フローニンゲン:2019/6/19(水)14:21

#### No.2090: A Peaceful Evening

A peaceful evening came, but it will rain soon. Groningen, 16:13, Wednesday, 6/19/2019

#### 4583. 変化の相互作用:作曲実践における工夫

時刻は午前5時半を迎えた。今日はとてもゆったりとした起床であり、5時前に起床した。昨夜就寝したのが10時前であったから、睡眠時間は十分である。また、非常に質の高い睡眠を取ることができていたように思う。

今日も一つ一つの取り組みに対して、可能な限りの集中力を持って取り組みたい。ただだと物事にあたるのではなく、それが自分のライフワークの一端をなすものであるのなら、なおさら集中して活動に従事したい。

今、小鳥たちの鳴き声が様々な方向から聞こえてくるが、今朝はあいにく曇り空である。薄い雲が空全体を覆っており、今朝は朝日を拝むことができない。ちょうど昨夜の就寝前から雨が降り出し、今は雨が止んでいるが、雨が通ったことを感じせる雰囲気は辺りを包んでいる。

天気予報を確認してみると、今日は昼前から雨が降り出し、それは夕食時まで続くようなので、今日も昨日に引き続き、午前中の早い段階でジョギングに出かけたい。タイミングとしては、早朝の作曲実践を何度か行った後に、具体的には9時すぎあたりに近所の河川敷にジョギングに出かけ、帰りに近所のスーパーに出かけて、バナナを購入しようと思う。来週の月曜日からモスクワ旅行が始まるため、このスーパーに立ち寄るのは、今日が今週で最後になるだろう。

---

昨日の多くの時間は、作曲実践をする喜びの中にいた。そこでふと、楽譜の中の音楽世界も、相場の世界のように絶えず動きがあり、変化があることに気づかされた。確かにすでに誰かが作った曲そのものは、それがひとたび楽譜の形になってしまうと固定されたものになるが、それを演奏する際や、それを元に自分の曲を作っていく際には、無限の変化が生まれる。

昨日に作曲実践の喜びを噛み締めていたのは、その喜びの根源には変化があったからではないかと思う。曲を作っている最中の自分自身が絶えず変化をしており、そこから生み出される曲もまた絶えず変化している。ここに二つの存在が変化を起点にして相互作用している姿を見る。自分自身の変化は曲に変化をもたらし、曲の変化は自分に変化をもたらしている。そうした変化の相互作用の海の中、ないしは波の上にいると、時が経つのも忘れてしまうぐらい、曲を生み出すことの楽しさと共にそこにあることができる。本当に、「そこにある」という感覚だ。今日もまた、そうした感覚を大切にしたいと思う。

今日から再びウォルター・ピストンのハーモニーに関する専門書を紐解く。棋士が棋譜を並べるように、プログラマーがプログラミングコードを打ち込むように、書籍に掲載されている実際の楽譜からの抜粋事例を再現していくことを行う。この実践をさらに面白く、さらに意義ある形で進めていくために、単に楽譜を再現するだけではなく、例えば掲載されている二つか三つの譜例を合成し、そこにアレンジを加える形で短い曲を作りたいと思う。

兎にも角にも、作曲の楽しさや喜びというのは創造することにあるのであって、単なる模倣の中にはない。楽しさや喜びを喚起するためにも、掲載されている譜例に自分から積極的に手を加え、変化を生み出すことが重要になる。そうした変化が驚きと発見をもたらしてくれる。自らが創造活動の担い手となって、変化を生み出すことに従事してみると、きっとそこには面白さが生まれてくるだろう。今日はそのようなことを意識しながら作曲実践を行いたい。フローニンゲン:2019/6/20(木)05:45

#### No.2091: A Pleasant Song in the Early Morning

It seems that I can hear a pleasant song from nowhere, which heals me very deeply. Groningen, 08:13, Thursday, 6/20/2019



---

#### 4584. オランダの起業家ビザ・個人事業主ビザの申請手順のまとめ

薄い雲に覆われた今朝方のフローニンゲンの空も、どこか味わいがあり、静かな心にしてくれる落ち着きがある。この街で、私は今年もまた生活を営み、ひょっとすると今後もしばらくはフローニンゲンで暮らしを営んでいくかもしれない。

デカルトやスピノザが探究のための生活地としてライデンを選んでいたが、私の場合、それはフローニンゲンなのかもしれない。おそらく、ここからもう少しライフサイクルが進めば、私も住んでみたいと思うライデンで生活を営む日がいつかやってくるかもしれない。

フローニンゲンで生活を続けるのか、ライデンへ引っ越すのかはさておき、少なくともここから7年間はオランダで生活を続けるだろう。というのも、来月あたりに申請する滞在ビザは、まずは2年間ほど有効のものであり、そこから再度更新すると、5年間ほど滞在延長をすることができるらしく、その仕組みを活用してオランダで生活をしていこうと思っているからだ。

もちろん、個人資産を投じて、投資家ビザを取得してしまい、永住権を獲得するという方法が最も手っ取り早い方法だが、現在はその他の欧州の国にも着目をしているため、投資家ビザの取得を焦る必要はない。重要なことは、落ち着いた生活環境を提供してくれるオランダというこの国で今後も長く生活を続けていくことだ。そうしたこともあり、まずは起業家ビザの申請に向けて、来週からのモスクワ旅行から戻ってきてひと休憩したら申請準備を始めたい。

先日、デン・ハーグに住む友人に、ビザの申請プロセスについて丁寧に教えてもらったため、もうその流れは頭の中にある。しかしそれを再度書き留めておけば、これから自分が何をしていく必要があるのかがより明確になると思われるため、簡単にそのプロセスについて書き留めておきたい。まずは、移民局のウェブサイトより、申請書をダウンロードして、それに記入し、移民局へ提出する。その際に、郵便か直接移民局に出向いて書類を提出する必要があるらしく、後者の場合には移民局へアポイントメントを取っておく必要がある。

昨年にserach year制度を使って滞在許可証を得た際には、申請書の提出はオンラインで行えたため、郵送か直接移民局に出向くという選択肢以外にオンラインで書類提出ができないのかを再度確認しておく。申請書に何も問題がなければ、この段階で仮滞在許可証を発行してもらえとのこ

---

---

とである。そこからしばらくして、移民局から下記の項目に関する書類を提出するようにという通知が手紙で届く。

必要なのは主に三つであり、住民登録番号、商工会議所で事業登録申請をした際に取得できる登録番号、資本金4,500ユーロが確保されたビジネスアカウントの口座証明である。私はすでに住民登録番号を取得しているため、一つ目に関する手続きは必要なく、またオランダの銀行口座をすでに持っているために、ビジネスアカウントを開くことも難しくはないだろう。

プロセスとしては、自分が行う事業のビジネスプランを作成した後に、商工会議所にアポイントメントを取り、そこでまず個人事業番号を取得する。その番号を取得して初めて、銀行でビジネスアカウントを開くことができる。銀行でビジネスアカウントを開くときに、最低資本金4,500ユーロを振り込み、その口座証明として、会計士に依頼をして、事業資金の証明書と貸借対照表の証明書を発行してもらう。正直なところ、銀行で発行してもらう残高証明があれば十分なのではないかと思ってしまうが、そうではないらしく、会計士に口座証明を依頼することが必要らしい。

今、改めてそれについて調べてみると、銀行での残高証明で問題ないという記述を見かけた。そうであれば、わざわざ会計士に費用を払って証明書を作成してもらう必要などない。この点については、再度申請書を読んでみて確認が必要だ。無事に上記の三つの情報が掲載された書類をオンライン上で提出したら、移民局から申請書受領の連絡が届き、その後審査が無事に通ったら、「滞在許可証を移民局に取りに来てください」という通知が届くとのことである。

これまでオランダで二回ほど異なる種類の滞在許可証を申請していることもあり、またそれらは今回の申請プロセスと大枠は似ているため、すでに申請準備のイメージがある。今回の申請において特殊なのは、簡単にまとめられたビジネスプランの準備(ワード2ページ分ぐらい)、商工会議所での登録、ビジネスアカウントの開設ぐらいであり、それらに意識を当てていけば、無事に申請が完了するのではないかと思う。フローニンゲン:2019/6/20(木)06:29

No.2092: Braveness in the Morning

This morning arouses my braveness. Groningen, 09:08, Thursday, 6/20/2019

---

#### 4585. ヴェロキラプトルとティラノサウルスが現れる夢

時刻は午前6時半を迎えた。書斎の窓越しから目の前の通りを眺めると、ジョギングをしている女性の姿が見えた。私も今日は午前中にジョギングを楽しみたいと思う。

早朝の作曲実践に取り掛かる前に、今朝方の夢について振り返っておきたい。今朝方の夢は、少しばかり恐怖感や緊張感を伴うものであった。

夢の中で私は、訪れたこともないある建物の中にいた。それは3階建てぐらいの高さの建物なのだが、各階層のスペースは広い。建物中も外も、白が基調になっている。私はその建物の1階にいて、どうやら何かに追われているようだった。何に追われていたかという、恐竜の中でも非常に知能が高く、社会性を持っていたことで知られているヴェロキラプトルに私は追われていた。数としては何頭かいたようなのだが、特に一頭が私を標的にして、ずっと後を追いかけてきていた。私は何とかヴェロキラプトルに捕まらないように懸命に建物内を逃げており、どんどんと上の階に上っていった。

3階まで上ってみると、どうやらヴェロキラプトルからうまく逃げることができたようだった。そこで安心をして3階のフロアを眺めると、そこは泉の湧く、とても平穏な場所だった。建物内にこうした自然があることを私は驚いたが、その落ち着きに癒され、しばらくそこで休憩を取ることにした。だが、ヴェロキラプトルの知能の高さを考えると、その場に留まっていたは見つかってしまうと思ったため、さらに上層階に行き、そこでこの建物から完全に脱出しようと思った。

上層階はこの建物の屋上に該当し、屋上に出てみると、なんとそこに父がいた。父の横にはワゴン車があり、「車に乗ってこの建物から一刻も早く脱出しよう」と父は述べた。私はそれに賛同し、車の中に乗り込んだ。すると、この車そのものがまた一つの建物に変形していった。そして、下の階から複数のヴェロキラプトルがどんどん上の階に上ってくる姿を見た。

父と私は、各階に色々な仕掛けをしたり、障害物を置いたりしながら、ヴェロキラプトルが上の階に上がってくるのを防ごうとした。その車かつ建物である不思議な空間体の最上部に向かう手前には、とても狭い通路のような関門があり、それは人が一人上に抜けられるかどうかの狭さであった。そこを抜けると、空を見渡せる開放的な空間が広がっていた。父と私はその空間に出て行き、狭い通路を塞ぐようなことを最後に行った。これでもひよっとすると、ヴェロキラプトルが私たちが今いる場所に

---

---

やって来るかもしれないと不安になり、案の定、その狭い通路をひっかくような音が聞こえ始めたところで夢の場面が変わった。

次の夢の場面では、最初の夢と似たような不思議な建物の中において、今度はそこでティラノサウルスから逃げることに奔走していた。先ほどのヴェロキラプトルは恐竜に過ぎなかったのだが、今度のティラノサウルスはなんと人間の言葉を流暢に話すことができた。

このティラノサウルスは人間を殺戮することを愛しており、そこに無上の喜びを覚えるような性向を持っているようなのだが、それでいて親切心のようなものを持っており、そうした相矛盾する点がより一層この存在を理解しがたいものにした。

ティラノサウルスから逃げながら考えていたのは、どうやらこのティラノサウルスが殺戮する人間には一定の基準があるようだということであり、その基準に適合しない人間は殺すことをしないということが見えてきた。このティラノサウルスはその巨体からは想像できないほどに機敏に動くことが可能であり、それは私を驚かせ、よりいっそう恐怖感を煽った。私はこのティラノサウルスに遊ばれているのではないかと思いながらも、懸命にその建物の中を逃げていた。

すると、視界が開かれていき、建物の中の雰囲気が変わった。そこはひとつ前の夢の中で現れていた泉が湧く場所に似ていた。より厳密には、もっと空間が広く、そこには泉のみならず、噴水などがあり、憩いの場が広がっていたのである。また、そこはレストランのようでもあった。

噴水の周りにはテーブル席が幾つかあり、食事をするスペースそのものが階層をなしており、各階層に泉が流れていて、テーブル席があった。その憩いの空間にもティラノサウルスはやってきて、この空間にいる人たち全員をひどく驚かせた。このまま逃げ続けていてもラチがあかないと思った私は、このティラノサウルスを撃退する決心をした。すると、私の左横に、小中高時代の友人(YK)がいて、彼は一言つぶやいた。

**友人:**「洋平が設計したこの建物のセキュリティはとても甘いよ。セキュリティレベルの数字を見てみなよ。建築基準を全く満たしていないじゃないか」

**私:**「えっ？この建物は自分が設計したものなの？」

---

友人:「何を言ってるんだ。忘れたのか？」

私は友人に言われて初めて、この建物を自分が設計したことを知った。どうやら自分の設計上の不備でセキュリティがとても甘くなってしまう、ティラノサウルスの侵入を簡単に許してしまったようだった。すでにティラノサウルスは建物の中に侵入して以降、何人もの人を殺戮してしまっている。その責任は私にあることを思うと、やるせない気持ちになり、やはりこのティラノサウルスを撃退しなければならぬと思った。

憩いの場に侵入したティラノサウルスを見ると、それは形を変え、一つの巨大なボールのような姿になっていた。それは鋼のようなボールであり、しかも尋常ではない速さで弾んでいる。それは地上にいる人たちを一瞬にして粉々にしてしまう力を持っていた。

このティラノサウルスには、殺戮の美学があるらしく、人間をどのように殺すのかについても徹底した基準と方法を持っているようだった。特にその方法に関して言えば、綿密に計算されたものであり、鋼のボールになったティラノサウルスは、ひとたびある人間をターゲットにしたら、精密に計算された動きでその人間を殺すことができた。私はその精確さに驚かされながらも、なんとかこのティラノサウルスを撃退するような手立てを打とうとした。するとあるところでティラノサウルスは元の姿に戻り、その場にいた人たちに名刺を配り始めた。

その場にいた人たちは恐怖ですくみ上がっており、身動きが全くできない様子であったが、そんな様子を気にかけることもなく、ティラノサウルスは冗談を述べながら、自分の名刺を一人一人に親切に渡していき、「何かあったら、その名刺に記載されているメールアドレスに連絡してほしい」と述べた。その一部始終を見ていた私は、何だかおかしくなってしまう、突然笑い出し、そこで夢から覚めた。フローニンゲン:2019/6/20(木)07:23

No.2093: Days Full of Enjoyment and Joy

How enjoyable and joyful today is. Groningen, 12:35, Thursday, 6/20/2019

---

## 4586. 夕暮れ時の振り返り:オランダのプライベートバンクの活用と今朝方の夢のシンボルについて

時刻は午後の9時に近づきつつある。今、小鳥たちが一日を締め括るための最後の鳴き声を上げ始めている。夕暮れ時の輝きを眺めながら、今日の振り返りをして、ゆっくりと就寝に向かいたい。今日も作曲実践と日記の執筆を核とし、それに付随する形で読書と協働プロジェクト関係の仕事に従事した。

明日も1件ほど協働プロジェクトに関するオンラインミーティングがあり、もう1件ほどオンラインでのイベントがある。それら二つの仕事を行いながら、明日も今日と同じように自らの取り組みを前に進めていく。

今日の読書では、プライベートバンクに関する実務書を読み進めていた。すでに一昨日の段階で初読を終えて、今日から再読を始めている。以前に言及したように、プライベートバンクの実態を掴むためには、実際にそれを活用してみる必要があり、今後はより真剣にその活用を検討していこうと思う。自分のライフサイクルやライフスタイルに応じて、プライベートバンクとの付き合い方は変わってくるようなので、今の自分のライフサイクルやライフスタイルの要求事項と合致するプライベートバンクを選びたい。

日本のプライベートバンキングサービスはまだまだ未発達のようにあり、また、ポートフォリオの地政学的分散を考えてみたときに、やはり欧州のプライベートバンクを活用することが自分にとっては賢明な選択のように思える。欧州のプライベートバンクと言えばスイスのものをすぐに思い浮かべるかもしれないが、調べてみると、オランダにも随分と歴史を持った老舗のプライベートバンクがあり、今後オランダでの投資家ビザ取得などを考えてみたときには、オランダのプライベートバンクを活用することの方が自分には望ましいだろう。プライベートバンクについては引き続き調査を進め、時期が来たらその活用に踏み切りたいと思う。

この時間帯になって今朝方の夢について思い返している。今朝方の夢の中では、特にティラノサウルスのシンボルが印象に残っている。以前にもティラノサウルスのシンボルが夢の中で現れたことがあったが、今朝のティラノサウルスは人間の言葉を話し、何よりも知性が極めて高かった。そして特徴としては、殺戮の美学というものを持ち合わせており、自らの殺戮哲学を貫く形で、正確無比に

---

人間を殺していったことを覚えている。その様子は、どこかサイコパス的であり、それもまた恐怖感を煽る点であった。また、ティラノサウルスが途中で鋼のボールに変形したことも何かを暗示しているだろう。

ティラノサウルスのシンボルは、自分のどのような側面を表しているのだろうか。鋼のボールは、自らの意志の現れだろうか。そのようなことを連想させる。いずれにせよ、今朝方の夢は幾分恐怖を引き起こすものであったことは間違いない。今夜はどのような夢を見るだろうか。フローニンゲン:2019/6/20(木)21:05

#### No.2094: A Shine at Dusk

I'm seeing a shine at dusk. I'll take a bath and enjoy eating dinner in a while. Groningen, 17:15, Thursday, 6/20/2019

#### 4587. 早起きな愛犬と近づくモスクワ旅行

時刻は午前3時を迎えた。今朝は午前2時半に起床し、そこからゆっくりと一日の活動を始めた。今朝の起床時間は幾分早いですが、この時間帯から活動を始めれば、日中に自分のライフワークを進めるための十分な時間を確保することができる。今日も着実に、そして集中した意識を持って自らのライフワークを進めていこうと思う。

今朝の起床は2時半であったが、偶然ながら欧州時間の昨夜、母からメールがあり、日本時間に換算すると随分と早い時間にメールが来たのでその点について尋ねてみた。メールの返信があったのはまさに日本時間の午前2時半あたりであり、何やら、毎日その時間帯に一度愛犬に起こされ、朝食を出しているとのことであった。母が今日の私と同じぐらいの時間に毎日起きていることに驚かされるが、そもそも母を起こす愛犬の早起きにも驚かされる。

人間は起床してから数時間ほどはデトックスの時間であり、食事を口にするのはあまり勧められないが、うちの愛犬が特殊なのか、うちの愛犬は起きてすぐに少量の食事を口にする事ができるらしい。そのようなことをぼんやりと考えながら、今年の秋に一時帰国した際に愛犬に会えることを楽しみにしている自分がある。気づけば彼はもう13歳だ。トイプードルなどの小型犬は比較的長生きで

---

きるらしいが、犬の健康も人間と同じように、食生活が最も重要らしい。どのような食べ物、特にどのようなペットフードを食べるかによって犬の腸内環境が決まり、それがガンを含めて、消化器官の様々なトラブルを引き起こすとのことである。幸いにも、うちの愛犬は食事管理がしっかりとされているため、今のところは健康であり、見た目も非常に若々しい。愛犬の様子を見ていると、本当にいかに食生活が生物の健康状態に影響を与えるのかがわかる。

今、辺りは闇と静寂に包まれている。この時間帯はまだ小鳥たちが目覚めておらず、彼らの鳴き声は聞こえない。日々の観察をもとにすると、小鳥たちが鳴き声を上げ始めるのはもう少し後からであり、だいたい4時前ぐらいだ。気がつく、モスクワ旅行の日が目と鼻の先に迫ってきている。

モスクワ旅行は、来週の月曜日、つまり三日後から始まる。当日は、アムステルダムを出発するフライトの時刻が13:15なので、3時間ぐらい前に空港に到着し、空港のラウンジでゆっくりとするのであれば、午前8時あたりにフローニンゲンを出発すればいいだろう。今朝のように早起きが常態化している私にとってみれば、起床後から午前8時までにはかなり時間があり、ゆったりとした形で旅の出発を迎えることができるだろう。

アムステルダムの空港からモスクワの空港までは3時間半ほどのフライトであり、それほど長くはない。ちょうど良いぐらいの時間を機内で過ごすことができるだろうか。今回の旅の期間においても、毎回の旅と同様に、そして日々の生活と同様に、日記の執筆と作曲実践を行っていく。毎日絶えず日記を執筆し、絶えず作曲を行っている自分の姿を見ると、本当にそれらの実践が自分の人生そのものになっているのだと気づく。

今回の旅においても毎回の旅と同様に、誰か一人の作曲家の楽譜を持参し、それとは別に作曲の理論書を持っていく。今回は、マックス・レーガーの“Modulation (2007)”を持って行こうかと考えており、この薄い書物をもとに、転調の技術を改めて学びたいと思う。

ロシアとの出会いが近づいていることに、今少しずつ喜びの感情が芽生え始めている。たった今、一羽の小鳥が目覚め、朝の歌を歌い始めた。フローニンゲン:2019/6/21(金)03:40



There are various types of awakening in this reality. Human development is a continuous process of awakening. Groningen, 05:40, Friday, 6/21/2019

#### 4588. 投資ファンドとプライベートバンクの活用を通じた世界の把握

時刻は午前4時に近づきつつある。昨日は明け方に印象に残る夢を見ていたが、今朝方は無意識の世界が穏やかであり、特に印象に残る夢を見ていなかった。一つだけ特徴的なことと言えば、睡眠中の自分の身体の低次のチャクラが活性化しているような感覚があったことだろうか。それは健全な意味での活性化であり、生命力を司るエネルギーを高めてくれるような運動であったと言い換えることができる。そうした形で目覚め、起床から1時間半が経った今は、今日これからの活動に向けての状態が整っていると言える。

空はまだほとんど真っ暗だが、かすかにダークブルーに変わる気配を感じる。そうした気配の中で小鳥たちが鳴き声を上げており、バッハの音楽を一旦止めて、それに耳を澄ませている自分がいる。

今日は午前10時あたりから小雨が降るようであり、それは午後2時か3時まで続くようだ。昨日、不在届けが郵便受けに入っていたので、雨が止むであろう夕方に、ジョギングがてら指定先の郵便局に足を運ぼうと思う。おそらく届けられたのは、イギリスかドイツの書店から送られてきた投資ファンドに関する書籍だろう。投資ファンドに関する書籍は先日二冊ほど購入しており、一冊は実際に投資ファンドに投資をするための実践的な内容であり、もう一冊は投資ファンドの闇に関する学術的な内容である。

今回届けられたのがどちらの書籍かわからないが、手元に届き次第、早速その書籍を読み進めていきたい。数日前に読み始めたプライベートバンクの書籍についても言えるが、書籍を読んでいると、人間は本当に一生涯を通じて自分の無知と向き合っていかなければならないのだと気づかされる。人間の発達とは、ある意味、自分の無知さと一生涯向き合っていくことだと言い換えることができるのではないかと思う。

---

現在私がプライベートバンクや投資ファンドに着目している最たる理由の一つは、確かに自己の資産を保全することと資産運用にあるが、それ以外に重要な理由としては、投資を実際に行うことによって金融の世界を知り、金融という観点から世界そのものを知りたいということが挙げられるだろう。金融の世界は、極めて巨大かつ巧妙な、そして堅牢かつ脆弱なシステムで回っており、それがこの現代社会に途轍もない影響力を与えていることを考えると、自らの直接体験を通じてその世界を知りたいという思いが強くなる。

昨日も言及した通り、現在プライベートバンクの活用に関して有益な観点を数多く提供してくれる実践書“How to Choose a Private Bank (2014)”の再読を行っている。大学時代に会計や金融を専攻していたため、当時からプライベートバンクの存在を知っており、それに関する和書を何冊か読んでいた。当時は確かにプライベートバンクに関する書籍は少なかったが、存在していたことは確かであり、それらを通じてプライベートバンクの概要については抑えていた。だが当時は、それを実際に活用しようという意識はそれほど強くなく、その点が今との違いであり、その違いが知識の習得に大きな差を生んでいるように思える。

今は、数年以内をめどにプライベートバンクを活用してみることを前提に、その準備の最初の一手として本書を読むことを行っている。今はスイスよりもオランダの老舗のプライベートバンクを活用することに意識が向かっており、今後は時間をかけて四つか五つほどのオランダのプライベートバンクを比較していきたいと思う。

今の自分のライフサイクルに照らし合わせると、相続に強いようなプライベートバンクには関心がなく、例えば非常に厳しい基準が設けられているオランダの投資家ビザの取得のサポートに定評のあるプライベートバンクがあれば、そうしたプライベートバンクが今の自分のニーズに合致しているように思う。

まさかオランダのプライベートバンクがオフショアではなく、オンショアのものになるとは思ってもいなかったが、それはオランダで生活をする一つの恩恵として受け止め、その貴重な機会を活用する形でオランダのプライベートバンクの特徴を知り、その活用を通じて資産運用を取り巻く諸々の事柄を知っていききたいと思う。フローニンゲン:2019/6/21(金)04:19

Merciful light falls down from an umbrella in the sky. Groningen, 06:52, Friday, 6/21/2019

#### 4589. オンショアのプライベートバンクの活用とオフショアの投資ファンドの活用

辺りが徐々に明るくなってきた。真っ暗闇の状態から、空がダークブルーに変わりつつある。そして、小鳥たちの鳴き声もよりいっそう活発なものになってきた。

日々とりとめもなく執筆している日記の内容は、本当にとりとめのないことであり、日々自分を取り巻く世界で起こった事柄や、取り巻く世界と自分が交差した瞬間に生じた体験について書き留めている。今日もこれからどのような日記を書くのかが不明なのと同じように、今後の日記についても何を書いていくのかは全く予想ができない。そうしたことを考えると、日記の執筆というのは、未知なものに向き合う最良の伴侶なのかもしれないと思う。あるいは、日記の執筆は、未知なるものとの出会いを促してくれるものだと言い換えることができるかもしれない。

そのようなことを考えながら、この数年間の日記の執筆内容を振り返ってみると、それは人間発達を取り巻く学術的な事柄や、フローニンゲン大学での研究生活、欧州各国への旅の話、作曲に関する話などが中心を占めていたのではないかと思う。そうした話題の中に、ここ最近では食に関するものが入ってきており、さらには投資に関するものも入り始めている。おそらく今後は、食や投資に関する話題、とりわけ現在投資に関しては再び学習と実践に力を入れていることもあり、投資に関する話題を取り上げることが多くなるかもしれない。とにかく学習や実践過程を自分の言葉で書き留めておくことが重要であり、投資に関して文章を書くことによって投資の領域における熟達もたらされる。

振り返ってみると、大学時代には金融を学術的な観点から、ある意味座学の形でしか学んでいなかったが、社会人になってすぐにコモディティ投資を始めたことを懐かしく覚えている。具体的には、当時は金やプラチナに投資をしていた。それらの商品に投資をしていた期間はごくわずかであり、アメリカの大学院に留学をすることが決まった時にその投資からは身を引いた。その時からすでに投資の直接体験を積んでおり、そこから今に至るまで、確かに投資から離れていた期間はあったも

---

の、欧州での生活も落ち着いた今、再び投資を本格的に始めようとしている自分がいるのもそれほど不思議ではない。

過去、投資においては、小さな成功体験や(大きな)失敗体験をしているのだが、これまではそれらの体験について一切書き留めていなかった。今後はここに書ける範囲で、それらの体験について言及していきたいと思う。

先ほどの日記の中で、オンショアのプライベートバンクとして、オランダのプライベートバンクを活用する選択肢について検討していることを書き留めていた。気が早い、プライベートバンクの利用そのものに対してリスク分散の概念を適用するなら、オンショアではなく、オフショアとしてスイスのプライベートバンクを活用することも今後の想定に入れている。また、今年中か来年には、ぜひともオフショアとして日本の投資ファンドを活用したいとも考えている。確かに、投資ファンドの活用は資産運用の側面が強いが、それと同じぐらいに、小額ながらも自己資金をファンドに投じる形で、日本経済に対して何かしらの貢献をしていきたいと考えている。

現在、日本株に特化した2社の投資ファンドに注目しており、ファンドの哲学と手法を精査している。どちらも共に、しっかりとした理念と確固たる投資手法を持っており、日本ではひょっとすると依然として投資ファンドに対するイメージが悪いのかもしれないが、投資ファンドの中には(多くは)、金融を通じた社会への確かな貢献をしているものがあることは否定できない。現在着目している2社は、まさにそうした投資ファンドである。なぜその2社に注目をしているのかについてはまた今後折を見て書き留めておきたい。フローニンゲン:2019/6/21(金)04:41

#### No.2097: Always Existing Loving-Kindness

I'm feeling the always existing loving-kindness at this moment. Groningen, 08:29, Friday, 6/21/2019

#### 4590. 作曲と投資に関する学習と実践を行う日々

時刻は午後8時半を迎えた。今、とても穏やかな夕日がフローニンゲンの街に降り注いでいる。

---

天気予報とは異なり、今日は目立った雨が降らなかった。ちょうど昼前にオンラインセミナーを行っている最中に数分ほど雨がぱらついた程度であり、その他の時間帯は晴れていた。

一羽の小鳥のさえずりが聞こえて来る。そのさえずりに耳を傾けながら、明日からの週末の到来を思う。

今週は先週以上に時間の流れが早く感じられた。普段の週よりも協働プロジェクト関係のミーティングが多く、さらには、再来週末から始まるオンラインゼミナールに向けた準備を行う必要があったからだろうか。まだ何も準備をしていないのだが、三日後からはモスクワ旅行が始まる。先日のバルセロナ・リスボン旅行の前のような状態に置かれており、旅の朝、フローニンゲン中央駅で列車に乗り込んだあたりから少しずつ旅に出かけるという感覚が増し、アムステルダムスキポール空港に到着した頃によりやく旅の実感が湧いてくるという感じに今回もなるだろうか。

今回の旅においても、列車や飛行機での移動中には日記の執筆と作曲実践を旺盛に行っていく。また、ホテルのラウンジでくつろいでいるときには、そうした活動により集中して取り組むことができるだろう。モスクワ入りをしてからも、ホテルの中では日記の執筆と作曲実践を最優先にする。来週一週間は当然ながら仕事のペースと分量を落とし、旅をゆっくりと味わう。

今年から来年にかけては、旅を味わう感覚を日常生活の中に溶け込ませていく。端的には、毎日が旅を行っているかのような感覚で生活を営んでいこうと思う。

先日偶然ながら、今の自分の姿はまだそこに至っていないのだが、「自分は、作曲家、投資家、旅人である」という自己定義が芽生えた。ひよっとすると、それらの三つの側面を統合したような人間として今後の生活を営んで行くような予感と希望がある。

夕暮れ時に照らされる街路樹の木々の揺れ、小鳥たちのさえずり。優しさを感じさせてくれる諸々の事柄が自己を取り巻いている。至福さの中に溶け込んでいけばいくほどに、日々のいかなる瞬間も至福さに変わっていく。今日の夕日はいつも以上に憐れみ深い光を発しており、それは天空の傘から放射線状に降り注いでいるかのように知覚される。

今日は午後、近所の郵便局に立ち寄った。というのも、昨日不在届けが届けられていたからだ。

---

郵便局に行くと、先日イギリスとドイツの書店に注文していた二冊の書籍を受け取った。ちょうど午後に、“How to Choose a Private Bank (2014)”の再読を終えており、ヘッジファンドに関するこれらの書籍を早く読みたいと思っていたために、非常に良いタイミングであった。

確か今朝方に、オランダの老舗のプライベートバンクを近年中に活用してみようと思うという話をしていたように思うが、今の自分のライフサイクルとライフスタイルを考えてみたときに、プライベートバンクの活用は、まだ時期尚早なのではないかと判断した。そうしたこともあり、今後の主たる学習対象及び実践対象は、ヘッジファンドによる資産運用にしようと思う。もちろん、ヘッジファンドによる資産運用は、数ある資産運用方法の一つに過ぎず、まだ多くの人にとってはそれほど一般的なものではかもしれないが、私は諸々の理由と事情により、ヘッジファンドへの投資に関心を持っている。

夕方に届いた書籍“How to Invest in Hedge Funds: An Investment Professional’s Guide (2006)”と“Capital Without Borders: Wealth Managers and the One Percent (2016)”をざっと眺めてみたところ、前者に関しては、ヘッジファンドの仕組みと投資手法に関する記述が非常に充実しており、それはおよそ400ページほどに及ぶ。ここで改めて、ヘッジファンドの仕組みと種々の投資手法についておさらいをし、さらには新しい観点を本書から得ていく。後者の書籍に関しては、富が少数の人間に牛耳られている社会問題を、ウェルスマネジメントの観点から考察していく上で非常に有益である。印象として、前者は実際にヘッジファンドを活用しようとする際の実践的な手引き書になるのに対して、後者はウェルスマネジメントの闇を社会学的に考察していく際に有益なものとなる。

明日からは、両者の書籍の章の中で真っ先に読むべき箇所として印を入れた章から読み進めていこうと思う。ここからしばらくは、作曲と投資に関する学習と実践を最優先にしていく。それら二つの領域を行き来する毎日が今後しばらく続くだろう。フローニンゲン:2019/6/21(金)20:51

#### No.2098: A Slow Flow

The flow of time in the morning is pleasantly slow. Groningen, 10:31, Friday, 6/21/2019

#### 4591. 変化の実感と投資に関する今後の学習と実践について

本日最初の小鳥の鳴き声が今聞こえ始めた。それは土曜日の始まりを静かに告げている。

---

今朝は午前3時過ぎに起床し、3:45あたりから一日の活動を始めた。起床直後の心身の状態はすこぶる良く、今日の活動も充実したものになるであろうことを早くも予感させる。

気がつけば一日一食の食生活が完全なる習慣となった。食生活を大きく見直してから3ヶ月ほどになるが、この3ヶ月ほどで驚くほどに身体の状態が変わった。それは肯定的なものであることは言うまでもない。身体の軽さのみならず、エネルギーの絶対量が増加し、質の高い睡眠を確保しながら随分と短眠になった。その結果として、日中での活動時間は相当に増え、それでいて高い集中力と多くのエネルギーを持って自らの取り組みに従事することが可能になっている自分がここにいる。

食生活の大きな見直しを行い、食に関して集中的な学習と実践を行ったことが、わずか3ヶ月ほどの間に自分を大きく変えてくれたことに改めて驚く。もちろん食に関しても他の領域と同様に、今後とも長く探究と実践を積み重ねていくが、短期間に集中的に学習と実践を行うことの意義というものを改めて実感させてくれる体験であった。

ここからの日々は、作曲に関する学習と実践に打ち込むだけではなく、投資に関しても食と同様に、集中的に学びを深め、実践をしていきたい。当面は本当に、作曲関連の書籍か投資関連の書籍を読むことが多くなるのではないかと思う。ただし投資と言っても私は短期投資にはあまり関心がなく、長期投資に関心があり、中でもヘッジファンドやプライベートバンクを活用した資産運用に関心がある。投資というのはこれまた幅が広く、奥が深い——闇も深い——世界であるから、自分の関心や人生上の目的に合致するような投資対象に絞ってまずは学習と実践を深めていくのが得策だろう。

確かに短期投資というのは、長期投資を行う上での元手を確保する上で重要なのだが、長期投資を行うに資するだけの資金を労働収入によってすでに獲得しているのであれば、無理に短期投資を行う必要はないのではないかと思う。少なくとも私は、投資対象のチャートを毎日眺めるよりも、楽譜を毎日眺めていたい。

チャート上の数字の値動きと楽譜上の音符の動きを眺めることは、どちらも抽象的な記号の動きを眺めることであるから、独特な面白さを持っていることは確かである。だが繰り返しになるが、二つの抽象的な記号世界を前にした時、私を捉えて離さないのは音楽記号に溢れる世界の方だ。そちらにより感覚的・存在的な共感を感じる。

---

今後も作曲に関する学習と実践を核にしながらも、生涯にわたって作曲に深く打ち込むための状況を確保するために、長期投資に関する学習と実践にも打ち込んでいく。積極的な資産運用としてはヘッジファンドを活用し、防衛的な資産運用としては米国国債や東南アジアの新興国に預金をするなどが選択肢として上がっている—その他にも何かしらのインデックス型の投資信託も候補の一つだ。

現在も調査中であるが、近々日本のヘッジファンド2社に投資をし、可能であれば今後はオランダを拠点にしたヘッジファンドにも投資をしたいと思う。後者に関する調査には時間をかける必要がある。近所に住む70歳を迎えた友人のミヘルさんは、経済・金融についても精通しているようであるから、今度話を伺いに行ってみようかと思う。フローニンゲン:2019/6/22(土) 04:06

#### No.2099: A Twitter in the Afternoon

I can hear a little bird twittering in the afternoon, which makes me feel peaceful. Groningen,  
16:42, Friday, 6/21/2019

#### 4592. 明後日からのモスクワ旅行に向けて

時刻は早朝の4時を迎え、書斎の窓の向こうから、そして寝室の窓の向こうから、小鳥たちの鳴き声が聞こえて来る。二つの窓を通して爽やかな風が入ってくるのみならず、小鳥たちの清澄な鳴き声も部屋に招き入れられている。透き通る風と小鳥たちの鳴き声に包まれる形で、今、書斎の机に向かってる。

午前4時を過ぎると、完全なる闇の世界から脱却し、空はダークブルーに変わり始める。今まさに、明けていこうとする空を眺め、朝日の到来を待っている。

幸いにも、今日はとても良い天気ようだ。最高気温は21度、最低気温は9度と少々肌寒いのは確かだが、それでも過ごしやすい気温であることは間違いない。フローニンゲンの週間天気予報を確認すると、今日から一週間は晴れマークがずらりと並んでいる。明日からは最高気温が高くなる日が続く、なんと来週の火曜日と水曜日には30度を越すようだ。フローニンゲンは30度を越してもカラッと爽やかさがあり、そうした気温を乗り越えやすいことはありがたい。以前にも言及したが、30度



---

を超えるような日というのは年間で多くなく、フローニンゲンのほとんどの家庭において、クーラーなどそもそもないのである。

火曜日と水曜日には30度を超えるようだが、その時は私はもうモスクワにいる。比較のためにモスクワの週間天気予報を確認してみると、モスクワは今日が30度を超えるような日のようであり、私がモスクワに到着する月曜日の最高気温は25度、最低気温は13度とのことである。また、モスクワ滞在期間中は総じて気温が下がっており、最高気温は20度前後、最低気温は10度前後だという予報が出ている。暑くも寒くもないという気候の中で、今回のモスクワ旅行を満喫できそうで何よりである。

昨日編集者の方から、先日出版された『インテグラル理論』に関する初速の状況に関する連絡を受けた。幸いにも、売れ行きは好調とのことである。ビジネス書としての注目のみならず、現代思想書としての注目が集まっているようだ。本書の動向については今後も遠くから見守っていきたいと思う。

気づけば明後日から始まるモスクワ旅行の荷造りについては、明日の夕食後にでも行うと思う。現在は1ヶ月か1ヶ月半に一回ほど休養も兼ねてどこかの国にぶらりと旅に出かけており、旅の準備に関してはいつも速やかに終わる。

今回のモスクワ旅行で持参する書籍としては、マックス・レーガーが執筆した“Modulation (2007)”のみとし、持参する一冊の楽譜についてはまだ吟味を重ねている。分厚いものではなく、薄めの楽譜を選ぶようにし、今回はロシアの地に足を運ぶのだから、ロシアの作曲家の楽譜を持参するのが望ましいかもしれない。この点についてはもう少し考えてみる。

今日は午後に街の中心部に出かけ、モスクワ旅行に持って行く食用オイルを詰めるための小瓶を購入する。先週あたりにそれを購入しておこうと思っていたのだが、結局今日まで先延ばしになってしまっていた。今回の旅行には、前回の旅と同様にココナッツオイルを持って行くが、それに加えて、アマニ油も持参しようと思う。機内持ち込み用の基準を満たした量のオイルを持って行くための小瓶を購入したら、その足でスポーツショップに立ち寄り、運動用のサングラスを新しく購入する。

三年前にフローニンゲンにやってきた時に購入したサングラスが実は随分と前に壊れてしまっており、新しいものを購入しに行くのが面倒であったため、セロハンテープなどを貼ってこれまで使って

---

---

いたのだが、時折レンズが外れてしまうことがあり、またセロハンテープが不恰好にも思えたため、本日街の中心部に足を運ぶのを良い機会として、新しいサングラスを購入したい。その後、近くのオーガニックスーパーに立ち寄り、ヘンプパウダー、りんご1個、サツマイモ2本、ジャガイモ2-3個、そして大根か何かの野菜を購入したい。それらがあれば、モスクワ旅行が始まるまでの今日と明日の食事を賄うことができるだろう。フローニンゲン:2019/6/22(土)04:36

#### No.2100: Invigorating Decision

This morning, I made an important decision for my life, which made me feel invigorated.

Groningen, 07:09, Saturday, 6/22/2019

#### 4593. 今朝方の夢

時刻は午前5時を迎えようとしている。今朝方の夢について今から振り返り、振り返りが終わったところで一杯の味噌汁を飲み、早朝の作曲実践に取り掛かりたいと思う。

夢の中で私は、実際に通っていた中学校の教室にいた。教室の雰囲気から察するに、それは中学校一年生の時に使っていた教室だった。私は、教室の最も左側の列、言い換えると廊下側ではなく、運動場側の列の比較的前に座っていた。その教室の雰囲気は確かに中学校のものなのだが、なぜだか廊下にあるロッカーだけではなく、教室の後ろにも、各人の荷物が置ける棚があった。それは小学校の教室にあった、各人のランドセルを置いておく棚のようであった。

教室の席に座っていた私は、何をすることもなく時間を過ごしていた。すると、教室の前のドアから一人の女子生徒が入ってきて、教室の後ろの方にいた友人に向かって、手のひらから無数の釘の光線を発した。それを見たときに、彼女にそのような特殊な力があることに驚き、同時に友人に向かっていく釘の光線が友人を傷つけないかを心配した。どうやらそれは遊びのようだとすぐに気づいたが、釘の光線はピストルと同等の殺傷力があるように私には思えた。

彼女の手から発せられた光線を友人はひらりとかわしたのだが、その光線はなんと私の荷物を置く棚に直撃し、棚の中はめちゃくちゃになってしまった。釘による傷が無数についてしまい、もうその棚は使い物にならなくなってしまった。不幸中の幸いとして、その棚には何も荷物を入れていなかった

---

た。どういうわけか、私は別に怒るわけでもなく、とてもおおらかな気持ちで事の成り行きを眺めていた。むしろ、釘の光線によってぐちゃぐちゃになった棚を見るのは面白くもあった。とはいえ、友人は即座に謝り、棚の修復作業をしてくれると述べた。この事態を招いたのは彼ではなく、教室の前のドア付近に依然として立って笑っている彼女なのだが、私は彼に棚の修理をお願いすることにした。

すると、その棚はどういうわけか教室から消え、廊下側のロッカーに統合された。そして、私のロッカーは無数の釘で崩壊寸前になっていた。そこで夢の場面が変わり、私は見知らぬ土地にあるサッカーグラウンドの横にいた。サッカーグラウンドを眺めると、そこには小中学校時代の同級生や一つ年上の先輩たちがサッカーの試合を行っていた。二つの学年が対決しているわけではなく、二つの学年を混ぜる形で試合を行っているようだった。私もその試合に参加をしようと思い、ウキウキした気分で準備運動を始めた。

すると、私の左横に小中高時代から付き合いのある女性の友人(MH)がいて、「試合に出たいのなら、早く自宅に戻ったほうがいいよ」と述べた。私は今からすぐにでも試合に出たいと思っていたので、なぜ自宅に戻る必要があるのか一瞬分からなかったが、どうやらユニホームもスパイクも持っていないような状態だったため、彼女はそれを理解して、サッカー用具を早く自宅に取りに行く必要があると述べていたようだった。私は彼女の助言ないしは忠告に速やかに従い、急いで自宅に戻ろうとした。グラウンドから離れていく間にも、私は試合のことが気になり、時折チラチラとグラウンドの方を眺めていた。

そこから急いで自宅に戻ろうとすると、この見慣れない土地はバルセロナの街のように思えてきた。そして、奇妙なことに、実家付近にある市民病院の周りの雰囲気はバルセロナのイメージに混ざり合っていた。バルセロナの中心部にある一本の道を左折すると、実家付近の市民病院の脇にある一本の道に行き着いた。道の横には何台かの車が路上駐車されていた。

私は自宅に向かって走っていたのだが、その道にたどり着いた瞬間にピタリと足が止まってしまい、まるで強力な磁力に押さえつけられるかのように、地面に倒れ込んだ。体を起こすことが難しく、私はほふく前進のような形で、地面を這いつくばいながらなんとか前に進んでいった。少しばかり体が起こせるようになってくると、道の脇に停車している車のボディにしがみついて休憩をし、なんとか先に進んでいった。停車している車はどれも無人だと思っていたのだが、中には人が乗っているもの

---

もあり、私が車のボディに寄り添うものだから、さぞかし中の人には驚いたことだと思う。だが彼らは何も私に言ってこなかった。目には見えない磁力に押しつぶされそうになりながらも、何とか前に進んでいるところで夢から覚めた。フローニンゲン:2019/6/22(土)05:19

#### No.2101: The Sky of Solace

The sky gives us solace. Groningen, 08:42, Saturday, 6/22/2019

### 4594. 人生における区切りの日: 4年間ほどの休養

時刻は午前5時半を迎えた。辺りはすっかり夜が明けて、朝日が赤レンガの家々の屋根に反射し始めた。つい先ほど、ここ最近長らく考えていたことを実行に移す決断をした。それはこれから4年間ほど休養を取るというものである。ここで今一度自分の人生を見つめ直し、自分がこの世界で果たすべき役割というものがあるのかを今一度深く考えたいと思ったのである。また、すでに明確になっている自分のライフワークに対して今のような調子で取り組んでいては決してならないと思っていたことも、今回の休養を決断させた理由となった。

今のところ期間としては4年間を見積もっているが、それよりも短くなるかもしれないし、長くなるかもしれない。理想としては、今回の休養期間を特別なものとするのではなく、絶えず自己を養い続ける状態の中で今後一生涯の人生を生きていきたいと思う。

休養に入っていくに際して、もちろんすでに締結している契約の仕事は引き続き行って行く。だが、今年度すでに動き始めている案件を除いて、もうこれ以上は新しい仕事を引き受けることはないだろう。ちょうど明後日の6/24は、モスクワ旅行の開始日であり、その日を境目に休養を開始しようと思う。それに伴って、メールの自動返信設定を整え、4年間の休養に入った旨の通知が届くようにする。

今後は、既存の契約関係にある個人・会社以外の人へのメールの返信は控えていく。メールがどれだけ自分の時間を奪うかに対して自覚的になり、メールを使わないようになる日を望む自分が以前よりいたのは確かだが、まさかこのタイミングでメールの使用を現在可能な限りで制限することになるとは思ってもいなかった。だがこうした行動は、決心した時に実行に移すことが重要だということ

---

をこれまでの人生を通じて自覚している。ケン・ウィルバーのインテグラル理論に出会い、即会社を辞めることを決意して、インテグラル理論を学びに米国西海岸へ留学しに行った時も同様の決心と実行があったように思う。

現代社会において、メールを使わないようにするというのは、かなり極端な行動に映るかもしれないが、私にとってみれば、メールに過度に依存した生活の方が異常に思えるというシンプルな理由もあり、今回の一見すると極端に見える行動を取ることにした。

繰り返しになるが、自分はメールを返信するためにこの人生を生きているわけではない。自分の人生の貴重な時間をメールなどに奪われてはならない。家族や親友たちからのメールにだけは返信をし、何かしらの契約関係にある個人の方と会社のみメールの返信を行うようにする。ここからの4年間は、休養期間であるのと同時に、自己を大きく育てていく期間でもある。

とにかく自分の取り組みにのみ専心していくこと。自分のライフワークに徹底的に打ち込む環境を自ら作り出すことの一環として、今回の意思決定がある。自らの探究とライフワークに打ち込むためには、人間関係と時間の使い方を根本から見直す必要があると気づかされた。それは他人から見れば極端であったとしても、なんら問題はない。

これまでの自分の人生の歩みと全く同様に、他人の目から見れば極端な行動を淡々と積み重ねていく。それを水の如く淡々と行い、水の如く生きていく。自分にとっての「如水」というのはそうした意味になるだろう。フローニンゲン:2019/6/22(土)05:52

#### No.2102: Liberation from Pressure

I began an attempt to liberate myself from a certain pressure. Groningen, 14:20, Saturday, 6/22/2019

#### [4595. 2019年6月24日から2023年6月24日までの4年間の休養について](#)

先ほどの日記に引き続き、2019年6月24日から2023年6月24日までの4年間の休養について考えている。もちろん、その期間において全く仕事をしないかというそうではなく、既存の契約関係にある個人や会社の中で、依存関係がなく、相互発達的な健全な関係にある方々とは引き続き協働をさ

---

---

せていただこうと思っている。ただし、それは来年度までを一応の目安としており、来年度以降はほぼ完全な休養期間に入ろうと思う。休養を取って、自分が本当に取り組みたいと思っていることに全身全霊で集中したいという強い思いがある。

自分の人生を大きく変える決断をする際、そしてそれが実際に自分の人生を大きく変えていくときには、常に極端な行動があり、同時にそれを実行していくだけの巨大なエネルギーがあった。今の私もまさにそのような状態にあり、ちょうど3ヶ月前に食生活を抜本的に見直し、心身を完全に入れ替え、途轍もない活動エネルギーを獲得したのは、何か絵に描いたかのような話である。

今回の決断にあたっては、始まりの日にはある程度意味を持たせたが、終わりのタイミングやその期間については意味を持たせていない。4年というのは様々な意味で良い周期かと思い、あまり考えずに設定したものである。正直なところ、期間は5年でも良かったし、10年でも良かったように思う。とりあえず現段階では、4年を一つの区切りに見ようと思う。この期間において、一部の人や会社にしかメールを返信しなくなることによって、随分と気が楽になると思われる。そして何より、自分の取り組みに集中できる時間が増すであろう。

人はとにかく多くのことを背負い過ぎなのではないかと思う。人間関係というのは目には見えないところで無数の網目のように張り巡らせているのだが、果たしてその網目の中で、自分にとって重荷になっているものがあるのではないだろうか、というのが自分が向き合っていた問いであった。

現在の両親を見ていると、こと人間関係に関する重荷からは解放されているように思える。そして二人は、自らのライフワークに従事しているように思う。二人の根幹にある思想が、今回の自分の決断に影響を与えていることは確かだろう。再度確認をしておく、まずはメールとはそもそも返信をしないもの、返信を期待してはならないものだという認識を持つようにする。そうした認識に立脚する形で、今後はごく一部の人のメールに対してだけ返信をしていく。早朝にすぐさま、早速、自動返信メールの文言を英文で作成し、その後日本語のものを作成した。その通知が届くようにし始めるのは、モスクワ旅行の日からである。

2019年6月24日は、自分にとって大きな意味を持ち、人生の何か大きな転換点となるような日だと後々になって思うかもしれない。なにやら、6月24日というのは「ドレミの日」とのことである。今から

---

1000年以上も前の1024年の6月24日に、イタリアの僧侶ギドー・ダレッツォがドレミの音階を定めたことである。私が目安の期間として定めた4年後の2024年6月24日は、ダレッツォがドレミの音階を定めてからちょうど1000年後ということになる。これは何かの偶然だろうか。

ケン・ウィルバーのインテグラル理論との出会い、今から2年前のザルツブルグ体験、そして今回の決断といい、この人生には本当に予期せぬことが起こり、それによって自分が大きく変わっていくのを実感する。

小鳥たちが相変わらず穏やかで、優しい鳴き声を奏でている。フローニンゲンの街をほのかな微風が通り抜け、朝日が優しくこの街を抱擁している。フローニンゲン:2019/6/22(土)06:16

### No.2103: A Walk Before Twilight

I took a walk in the afternoon. It refreshed my body and mind very much. Groningen, 17:01,  
Saturday, 6/22/2019

#### 4596. 穏やかな土曜日の夕方に

時刻は午後の4時を迎えた。つい先ほど、街の中心部から戻ってきた。今日はとても穏やかな土曜日であり、それでいて中心部の市場は活気に満ちていた。今日の買い物においては、まず最初に、先日見つけた隠れ家的な雑貨屋に立ち寄り、明後日からのモスクワ旅行で持って行く食用のオイルを詰める小瓶を購入した。それは50mlほどの小瓶であり、機内持ち込みの100mlの制限を十分に下回る。

このあいだのバルセロナ・リスボン旅行の際には、オイルプリングのためにココナッツオイルを同じ小瓶に入れて持って行っており、今回の旅においてはココナッツオイルに加えて、毎朝オイルプリングの後に飲んでいるアマニ油を持って行くためにもう一つ小瓶が必要であった。目当ての小瓶を無事入手した後は、その足で中心部のスポーツ店に行き、サングラスを購入した。三年前に購入したものはもう一年ほど前に壊れており、この一年間はセロハンテープを貼ったサングラスを使っており、それに慣れてしまっていたのだが、この機会に新しいものを購入しようと思い立った。

---

サングラスに関しても、なかなか良いものを購入することができたので満足である。その後、スポーツ店と眼と鼻の先にある中央市場で、イチゴ2パック、サツマイモ2つ、ジャガイモ3つ、リンゴ2個を購入した。これにてモスクワ旅行までの食料は十分確保されたと言える。そこから最後に、オーガニック食品専門店で足を運び、ヘンプパウダーとマカパウダーを購入した。

行きは街の中心部までジョギングをして、帰りはゆっくりと歩いて帰ってきた。自宅に戻る道中も、頭の中は作曲と投資のことで一杯になっていたが、それでいて気持ちは穏やかであった。

とにかく現在の関心事である作曲と投資に関して学習と実践を進めていくための十分な時間を確保したいと思う。必要最低限のメールの返信にとどめ、4年間ほど休暇を取るとするのは、作曲と投資に集中するためでもある。そうした観点から、今朝の意思決定は非常に重要なものになるだろう。それは自分を人間関係的にも経済的にも身軽にしてくれるものであり、どこか爽快感をもたらしてくれるものであった。

おそらく、管理会計的な発想をしてみれば、人間関係においても、家計においても、固定費的なものを低減させていけばいだけ、日々の生活がより身軽なものとなり、より充実感が増すのではないかと思う。固定費を削減することによって生み出された時間的なゆとりと精神的なゆとりを、作曲と投資の学習と実践に最大限充てていく。ここからの4年間はそれらの二つの領域に特化し、集中的な学習と実践を同時並行的に毎日行っていく。人生がここからまた新たに、そしてこれまでとはまったく異なる次元で動き出していくだろう。フローニンゲン:2019/6/22(土) 16:21

#### No.2104: A Lasting Dreamy Sate of Mind

Although three hours already have passed since I got up, a dreamy state of mind continues.

Groningen, 08:01, Sunday, 6/23/2019

#### 4597. 創造活動に適した早朝に思うこと

時刻は午前5時半を迎えた。この時間帯は、辺りがすっかりと明るくなっており、とても穏やかな雰囲気を出している。平日も休日も変わらずに鳴き声を上げている小鳥たちの様子を見ると、どこか自



---

分の姿と重なる。平日も休日も関係なく、自分に与えられた役割を全うし続けること。それが、小鳥たちと私に共通している事柄である。今日も自らに与えられた役割を全うしていきたいと思う。

早朝の時間は兎にも角にも、創造活動に充てる時間とする。世界と交差することによって生み出された自分の内側の思考や感覚を言葉や音の形にしていくこと。早朝の時間帯はそれに集中していく。こうしたことも日々の習慣にしていれば、何も意識することなくそうした活動に従事できる。具体的には、日記の執筆と作曲実践は完全に早朝の習慣となり、そしてそれは早朝のみならず、一日のうちの様々な時間帯においても実践される対象となった。その中でも、早朝の時間帯は外の世界も静かであり、そして自分の心身もクリアな状態であるから、創造活動に最も適した時間帯であると言えるだろう。こうした時間帯をその他の無駄な活動などに使ってはならないとつくづく思う。

ちょうど明日からは4年間ほどの休養期間かつ旺盛な創造・探究期間に入るが、その期間においてはメールの使用頻度を徹底的に減らしていく。メールの確認は、これまでもすでに夕食後にしか行っておらず、それはとても良い習慣だと思う。創造活動に適した朝にメールを確認したり、返信したりするという馬鹿なことを行わなくなっただけで、日々がより充実したものになっている。他者から送られてくるメールを確認してしまうことは、それだけで身体エネルギー・意識エネルギーを随分と使ってしまうため、創造活動の妨げになる。

他人に自分の人生を制限させることを許容するのではなく、自らの人生は自らで舵取りをしていく。明日からはメールからも大きく解放されることになるため、今後の日々はより一層精神的な解放感に溢れ、充実感で満たされるだろう。

いよいよ明日からはモスクワ旅行が始まる。偶然ながら今回の旅行は、4年間の休養期間の始まりを祝すかのような旅となった。再度明日のフライトの時間を確認すると、アムステルダムスキポール空港を出発するのが13:15であるため、いつもの時間に起床すれば、自宅を出発するまで随分と余裕がある。明日も空港内のラウンジで3時間弱ほどくつろぎたいため、自宅を午前8時前に出発し、10時過ぎにスキポール空港に到着するような列車に乗ろうと思う。

アムステルダムからモスクワまでのフライト時間は3時間半ほどだが、時差の都合上、現地に到着するのは17:45とのことである。モスクワ到着の初日は、ホテルに直行し、ホテル近くのスーパーに立ち

---

寄る。そのスーパーは、オーガニック食品が置かれていることで定評があるようなので、どのような食材が手に入るのか楽しみだ。これまで、オーガニック食品を意識しながら様々な国のスーパーに置かれているオーガニック食品を比較しており、今回はロシアのオーガニック食品市場について観察をしたい。そのようなことを考えながら、オーガニック食品を専門に扱っているオランダの上場企業があれば、そこに投資をしたいと思う自分がふと姿を見せた。フ ローニンゲン:2019/6/23(日)  
05:46

#### No.2105: A Dance Floor of the Sky

I'm being embraced by the atmosphere right now that makes me feel as if I were dancing on a dance floor of the sky. Groningen, 09:47, Sunday, 6/23/2019

#### 4598. 死にまつわること

いと高い場所へと導かんとする小鳥たちの清澄な鳴き声が辺りに響き渡っている。そうした鳴き声に耳を傾けていると、自分の意識はますます洗われていき、本当にどこか高い場所へ向かって上昇していくような感覚がする。そこでふと空を眺めると、そこには広大な青空が広がっていて、早朝の朝日が、空に浮かぶ小さな白い雲にほのかな赤みを与えている。赤レンガの家々の屋根に朝日が照らされる時、それは黄金色の輝きとなって知覚される。

心を洗浄してくれるのは小鳥たちの鳴き声だけではなく、フローニンゲンの街を駆け抜ける微風もそうである。今、微風が街路樹の葉を優しく揺れ動かしており、それを眺めるだけでも心が洗われていく。

そういえば、昨日街の中心部に買い物に行き、自宅に戻っている最中に、モズのような一羽の小鳥の死骸を道端で見かけた。ちょうど前を行く女性が地面の方に視線を落としたため、私もその場を通る時に視線を地面に落とした。すると、そこには小さく愛らしい小鳥が息を引き取っている姿があった。ネコか他の鳥か何かの襲われてしまったのだろうかと思ったが、小鳥には外傷は見られず、もしかしたら老衰か何かだろうかと思像した。そうであればいいなと私は思った。

---

日本人の寿命は年々微増しているようである。だが気をつけなければならないのは、健康で長生きをしている人たちというのは本当にごく一部であるということだ。それに関する統計データを見たことがあるのだが、健康な心身を持って老衰という自然死を迎える人は本当に一握りであり、大半の人たちはガンや生活習慣病などによって息を引き取る。

心身を患いながら長く生きるのではなく、心身を健康に保ち、そして人生を絶えず深めながら長く生きていくこと。不健康に単に長らく生きるのではなく、もし長く生きるのであれば、私は心身の健康を大切に、そして人生を日々少しずつ深めながら生きたいと思う。結局のところ、自らの不摂生が原因となって生み出されたガンや生活習慣病によって命を失う人たちは、孤独のうちでは死ねないのではないかと思う。

以前よりぼんやりと思っているのは、自分の死という体験は自分のものでしかないという点において、基本的に人は独りで死ぬのだが、真に孤独のうちで死ぬことができた時に初めて、孤独さを超えたより大きな世界の中に溶け込んでいくのではないかということだ。言い換えると、究極的な孤独さを伴う死を経験して初めて、究極的な普遍性が存在する世界に参入できるのではないかということである。そのようなことをふと考えながら、真の孤独さを味わいながら生涯を閉じていくことの大切さを感じ、自分の不摂生が原因で生み出されるガン細胞などと一緒に生涯を閉じていく人が多いことへの残念さを感じた。

赤レンガの家々の屋根に照らされる朝日の量が増し、辺りはよりいつそう黄金色に輝き始めた。世界は穏やかな光で満たされている。フローニンゲン:2019/6/23(日)06:10

#### No.2106: A Bitter Taste in Pomposity & Grandiosity in a Bitter Taste

There is a bitter taste in pomposity and grandiosity in a bitter taste. Groningen, 11:00, Sunday, 6/23/2019

#### 4599. 今後のオンラインゼミナールやセミナーについて

気がつけば、監訳を担当した書籍『インテグラル理論』が出版されてから一週間以上が経った。全く意識していなかったが、昨日が出版からちょうど一週間の区切り目であった。

---

本書の出版を記念したオンラインゼミナールが、再来週の金曜日から始まる。オンラインゼミナールを開講するのは、『能力の成長』を出版して以来のことであるため、実に2年振りとなる。毎回ゼミナールを行う際には、そこで取り上げたテーマに関するゼミナールは繰り返し行わないことを意識しており、今回も上記の書籍を取り上げた最後のゼミナールになるだろう。もちろん、同じ書籍を取り上げて繰り返しゼミナールを行う意義もあるかと思うが、私の性格上それはできない。そうした意味において、今回は『インテグラル理論』を取り扱う最初で最後のゼミナールであるから、色々な意味で楽しみでもある。

前回のゼミナールと今回のゼミナールの間には、2年間ほどの空白期間があった。このところ思うことがあって、今回のゼミナールは『インテグラル理論』を取り上げることに於いて最後となるだけではなく、もしかしたら自分が行う最後のオンラインゼミナールになるかもしれない。もちろん、数年後に気が変わり、いつかまたオンラインゼミナールをする日がやってくるかもしれないが、少なくとも明日からの4年間ほどの休養期間にゼミナールを開講することはないであろうし、休養期間が終わる頃にはまったく違う自分がそこにいるであろうから、オンラインゼミナールを行う可能性は極めて低いように思う。

ひょっとすると、成人発達理論やインテグラル理論以外のテーマであれば、何かしらのオンラインゼミナールを行う可能性がある。いずれにせよ、今後しばらくは、成人発達理論やインテグラル理論を取り扱うようなゼミナールは基本的に開講しない。ここ最近思うことがあってそのような方針を固めており、それは企業からのセミナー依頼においても当てはまる。直近でも何件かセミナーの依頼を受けたが、結局それらの依頼は全てお断りさせていただいた。自分の中で思うことがそうさせたのである。今後は、直近数年間にお付き合いのある企業や、現在密に協働している企業を除き、基本的にはセミナーの依頼を受けることはないかと思う。とにかく自分の時間を捻出し、自分がこの世界で本当になすべきことに集中していく。

午前6時半を迎えようとしているフローニンゲンの今この瞬間は、幾分肌寒い。より肯定的な表現に書き換えるならば、とても爽やかな朝だと言える。幸いにも、午後に向けて気温が上がっていくようなので、今日は夕方に、近所の河川敷にジョギングに出かけたい。そして、夕食を食べ終えてから、さっと明日のモスクワ旅行の荷造りをしたいと思う。それと今日は昼前に大事なこととして、出版記念オンラインゼミナールの補助音声教材を作りたいと思う。実際のクラスの場合だけではなく、今回は私

---

の方でインテグラル理論や成人発達理論に関する様々な論点を選び、それらについて自分のペースで理解を深めていけるような録音音声教材を作成することになっている。今日は幾つかの論点を選び、それらについて音声ファイルを作成しようと思う。フローニンゲン:2019/6/23(日)06:27

#### No.2107: A Fragment of a Feeling in the Afternoon

A trip to Moscow will begin from tomorrow. I'll pack up my things after dinner. From now, I'll go jogging for a change. Groningen, 15:47, Sunday, 6/23/2019

#### 4600. 今朝方の夢とそれが示唆する事柄

早朝の作曲実践に取り掛かる前に、今朝方の夢について振り返っておきたい。

夢の中で私は、夜の運河沿いを歩いていた。そこは日本のようであり、オランダのようでもあった。そこがどの国なのかはよくわからず、また私はそれを気にもしていなかった。しばらく運河沿いを歩くと、そこに一棟のビルを発見した。地上から見るとそのビルは極めて高いのだが、すぐさま中に入って確認すると、なぜだかエレベーターの押しボタンが2階までしかなく、階層の数は少ないのだが、一階一階が極めて高い作りになっていることに驚いた。

私はエレベーターを使って上の階に行ってみることにした。エレベーターのドアが開くと、そこには、小中学校時代の友人が二人(TO & DN)いて、興奮気味に何かを話していた。何を話しているのか気になったので彼らに早速話を聞いてみると、なにやらサバイバルゲームをやっている最中とのことであった。

私:「サバイバルゲームの最中なん？」

一人の友人:「うん、そうなんよ」

別の友人:「あっ、下からモンスターが来たっちゃ。早く行かんとやばいけん、先に行くわ」

二人の友人はそのように述べ、エレベーターを使って下の階に降りようとし始めた。一人の友人が述べた「モンスターがやって来る」という言葉が気になっており、私はどのようなモンスターかを確認

---

するよりも先に、二人の慌て具合から、モンスターの強さを察し、私もエレベーターを使って逃げることにした。

地上階に到着した私たちは、すぐさまビルの外に飛び出し、そこで別れ、お互いがお互いの行きたい方向に向かって逃げることにした。私は来た道に戻る形で走り出し、運河を掛ける橋を越えて行こうとした。すると、私の後をつけてくる、人間の形をした黒いモンスターがいることに気づいた。それは、黒い粘土と石油を混ぜたような物質で作られたモンスターであり、人間の言葉を話すことができた。

私は走って逃げるのではなく、そこから空を飛んで、運河の向こうに見えるアパートのどこか一室に逃げ込もうと思った。空を飛んでみると、そのモンスターはどうやら空を飛べないらしく、私はそのモンスターを振り切ることできた。そして、アパートに到着してみると、そこは私が高校時代に住んでいたアパートだった。アパートの各部屋のベランダには、たいてい様々な植木鉢が置かれていて、花や植物を育てているようだった。

私は直感的に、自分は目の前の1階の部屋に住んでいると思い、ベランダから家の中に入ろうとしたが、そうはせず、きちんと玄関から入ることにした。玄関のある場所には洗濯機と乾燥機が置かれており、そういえば自宅を出る前に乾燥機を回していたと思い、乾燥機の扉を開けてみると、見慣れない衣類がたくさん見えた。その瞬間、自分が乾燥機を回していたのは昨日のことだったと思った。すると、1階の反対側の部屋のドアが開き、中から小柄なオランダ人の男性がにこやかに外に出てきた。そして、私が開けた乾燥機の前で、「申し訳ないね。今すぐに中のものを取り出すよ」と日本語で述べた。彼は外見はオランダ人なのだが、日本語はネイティブのそれだった。彼は笑顔でせっせと衣服を乾燥機から取り出し、その中には封筒に包まれた手紙が何通も混じっていた。そこで夢の場面が変わった。

毎回の夢と同様に、この夢にも興味深いシンボルがいくつも現れている。一つ印象的なものを挙げれば、それはやはり黒いモンスターだろう。それは人間の形をしており、人間の言葉を話すことができた。しかもその言葉は日本語であった。そうしたことを考えてみると、それは日本語空間で形成された私のシャドーであることは間違いないだろう。確かに、夢の中でそれは私の後をつけていたが、

---

私に危害を加えるような雰囲気はなかった。ひっそりと私の背後にいるような存在。あのモンスターは、私が抱えるシャドーのどのような側面を表しているのだろうか。

少しばかり情報が足りないのでなんとも言えない。もう一つ印象的だったのは、アパートの1階の乾燥機の中にあった封筒に包まれた手紙である。それは形も崩れておらず、郵便ポストに届けられたままの綺麗さを保ってそこにあった。しかもその数はかなりの数であり、衣類よりも多く乾燥機に入っていたように思う。

未開封の綺麗な手紙が象徴していることは何なのだろうか。直感的に、それは自分自身の未だ開かれぬ発達の可能性やこれからの人生の可能性を象徴しているようにも思えてくる。手紙が未開封であったことから、自分の中でまだ開かれていないことを示唆しているのではないかと捉えるのは比較的妥当なことだろう。また、それは自己や自分の人生にまつわる秘密を暗示しているとも解釈できるかもしれない。フローニンゲン:2019/6/23(日)07:02

#### No.2108: On the Morning of a Trip to Moscow

It is 6AM now. The sky above Groningen is beautiful, which looks like as if it were celebrating my trip to Moscow from today. Groningen, 06:00, Monday, 6/24/2019